

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～  
平成27年(2015年)度評価表

評価の区分  
A 目標を上回る成果をあげた  
B ほぼ目標は達成した  
C 目標には及ばなかった  
D 目標には遠く及ばなかった

使命	県立歴史館は、長野県の歴史に関する調査研究に基礎をおきながら、埋蔵文化財(考古資料)、歴史的価値ある文書等の歴史資料の収集・整理・保存を通じて、県民の歴史遺産を子孫に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、未来を展望し、また学び、憩い、交流する場としての役割を果たします。						
基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集し、調査研究を行います	○ 館蔵資料の調査 a 考古資料(縄文土器・木製品)の調査 ・ 秋季展「樹木と人の交渉史」の開催 b 長野県速報展・遺跡発掘2016、2017の資料調査 ・ 平成28年度の展示を目指して調査	・ 秋季展「樹木と人の交渉史」を開催 期間10/3～11/29 6,570人 ・ 「遺跡発掘2016」を開催、巡回中 歴史館 3月12日～6月26日 南信会場 7月9日～8月21日 中信会場 9月3日～10月16日 東信会場 10月29日～11月13日 ・ 「遺跡発掘2017」資料調査、資料選定中	B  B			
		○ 文献史料の収集・整理・保存 ・ 整理作業の完了	・ 文献史料の収集 行政資料477冊、古文書3206点 ・ 収集資料の整理 行政文書302冊、行政資料477冊、古文書5114点 (伊那郡赤須村文書ほか)	B			
		○ 考古資料の保存処理 ・ 収納木製品の保存処理(1,000点)	・ 木製品 500点の保存処理完了	C			
		○ 館設定研究テーマの調査・研究 ・ 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を平成27年度冬季展で活用する。 ・ 市町村教育委員会との城下町研究会で現地視察を含めた研修会を実施し、平成28年度冬季展で活用する。 ・ 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。	・ 長野県絵図・地図研究会 4回開催 明治初期の町村地図約1000点を素材に測量法や描画法など研究。 平成27年度冬季展「地図の明治維新」にて成果活用。入場者2806人 ・ 長野県近世城郭、城下町研究会 2回開催 うち1回松本城下町跡現地見学 平成28年度冬季展「信濃国の城と城下町」にて成果活用予定。 ・ NPO法人ヤマボウシ自然学校と「森將軍塚の樹木観察会と自然クラフトづくり」を実施	B			
史資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します	○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・ 依頼事項の90%以上	・ 実施件数 22件	B				
	○ 史資料保存活用講習会の開催 ・ 参加者60人(20人×3日) ○ 考古資料保存処理講習会の開催 ・ 参加者40人(20人×2日)	・ 1回開催 参加者23人 ・ 2回開催 参加者36人	C B				
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○ 常設展 ・ 観覧者の増加 (H23年度比5%増 45,500人) 【H23観覧者 43,383人】 ・ 満足度 8割	・ 観覧者 38,625人(△6,875人 △15.1%) ・ アンケート結果 満足 86.4%(H26 84.5%)	C	・ はじめて見学したが予想より面白かった。 ・ 触れたりして体験できるコーナーが楽しかった ・ 少しずつ展示替えされているのが楽しみ。 ・ 古い農家など説明がもっと有ればうれしい。		
		○ 企画展 ・ 観覧者の増加 (H23年度比5%増 35,500人) 【H23観覧者 33,676人】 ・ 満足度 8割	・ 観覧者 31,886人(△3,614人 △10.21%) ・ アンケート結果 満足 88.9%(H26 87.7%)	C	・ 戦争を経験したことがないので、当時のことをもっと知りたいと思いました。このような企画をもっとやってほしい(長野県民の1945) ・ 自然の中で生きる苦労がわかった(秋季企画展)		
		○ 個別研究 ・ 学芸部職員 1人1研究	・ 2.5件/1人 [延件数42件/職員17人] (内訳 ブックレット31 研究紀要7 外部4)	B			
		○ 共同研究 ・ 長野県測量設計業協会との地図・絵図の研究会で共同研究を進め、成果を平成27年度冬季展で活用する。 ・ 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。	・ 長野県絵図・地図研究会 4回開催 明治初期の町村地図約1000点を素材に測量法や描画法など研究。 平成27年度冬季展「地図の明治維新」にて成果活用。入場者2806人 ・ NPO法人ヤマボウシ自然学校と「森將軍塚の樹木観察会と自然クラフトづくり」を実施	B	・ 明治前期の地図は今まであまり見たことがなかったので、勉強になった。 ・ 明治のものがきれいに残っているのは驚き。 ・ 陶磁の人々の苦労(方位・地形・縮尺等)がしのばれる。 ・ 違う地図がみたい、描写に凝ったものとか楽しい。 ・ 展示地図が現在地のどこにあたるかなどの比較表示がもっとほしい。 ・ 自分の出身地の地図が無くて残念だった。		
	県民の生涯学習を支援します	○ 古文書講座(25回) ・ 受講者 900人(36人×25回) ・ 満足度 8割	・ 25回開催 受講者 833人 ・ 講座出席率 85% 満足度92%	B	・ 歴史背景などをあわせて教えていただいたので、楽しかった。 ・ とても楽しかった、一層古文書に興味をもてる。		
		○ 考古学講座(4回)、探訪会(1回) ・ 受講者 240人 (講座 50人×4回、探訪会 40人) ・ 満足度 8割	・ 5回開催 受講者 305人(うち探訪会32人) ・ アンケート結果 満足度 9割	A	・ 難しいテーマだったが、遺跡への新しい考え方を知ることができた。 ・ 考古学的手法で戦争を考えることに新鮮な感じがした。		
		○ やさしい信濃の歴史講座(7回) ・ 受講者 700人(100人×7回) ・ 満足度 8割	・ 9回開催 受講者1,228人 ・ アンケート結果 満足度 93%(H26 94%)	A	・ 歴史の楽しさを教えていただいた。 ・ これからも地域の歴史を解りやすく解説してほしい。 ・ 内容の割に時間が短すぎる。テーマを一つにして内容を濃く。 ・ 来年度も松本など県内各地で講座を開催していただきたい。(県内巡回すべし。) ・ 内容が浅く不満が残った。		
		○ 企画展・季節展等講演会 5回 (速報、春・夏・秋・冬企画展等) ・ 受講者 500人(100人×5回) ・ 満足度 8割	・ 5回開催 受講者 618人 ・ アンケート結果 満足度91%	B	・ 弥生時代～古墳時代の大きな展開が感じられた。(速) ・ 戦争時の人びとの考え方がよくわかった。(夏) ・ 人と樹木の関係の密接さがわかった。(秋) ・ 地図を作成する大切さ努力が伝わった(冬)		
		○ 大人の遠足(八十二財団との共催) ・ 秋季企画展でまちづくり団体等との連携によるイベントを開催する。	・ 参加者 170人 講座2回 133人 現地見学 37人	B			
		○ ブックレット刊行 ・ 年1冊の刊行	・ ブックレット22号「山」を刊行	B			
○ 関係機関との連携 ・ 飯田美術博物館(飯田市)、豊科郷土博物館(安曇野市)との連携した講座を開催する。 ・ 県博物館協議会HP開設し、連携強化を図る。	・ 飯田市美術博物館 受講者81人 ・ 安曇野市豊科郷土博物館 受講者69人 ・ 県博協HPの基本設計完了	B					
○ 出前巡回講座 ・ 「やさしい信濃の歴史講座」の上田市、松本市での巡回開催を行う。 ・ 「長野県の遺跡発掘2015」の伊那市、安曇野市での巡回開催に合わせた講演会等の開催する。 ・ 戦後70年企画「長野県民の1945」等に関連した出前講座を実施する。	・ 上田市1回 松本市2回 合計受講者71人 ・ アンケート結果 満足 86.0% ・ 伊那1回 安曇野2回 ・ 大町市、駒ヶ根市他 13講座 参加者729人	A	・ 歴史を知りたかった。(上田) ・ 戦前長野県の観光についてが興味深かった。(松本)				

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
学校教育を支援します	学校見学の開催	○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの開発試行	・ 1種類であった学習シートを、見学内容にあわせて4種類を用意した。	A			
		○ 学校見学の展示解説 ・ 展示解説・体験ボランティアの募集・要請を行い、学校見学の解説、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展示等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。	・ 学校見学のボランティア解説(46回)	A			
		○ 学校見学のバックヤード探検 ・ 希望校の90%以上の受入	・ 100%受け入れ(270校)	A			
		○ 博物館実習・職場体験学習の受入 ・ 希望者の90%以上の受入	・ 100%受け入れ(博物館実習8人 職場体験20人)	A			
		○ 教員研修への協力、実施 ・ 希望者の100%の受入	・ 100%受け入れ(免許講習138人 教材研修11人)	A			
		○ 出前授業(講座)の実施 ・ 公民館等への出前講座の充実を図る。	・ 平成26年度 43回 2,107人 ・ 平成27年度 74回(対前年比1.7倍) 4,278人(対前年比2倍)	A			
		○ 未利用校の利用促進 ・ 中南信地区の校長会、教頭研修会での歴史館について情報提供を行い、利用促進を図る。	・ 中南信の校長会で歴史館の紹介を実施(5回)	B			
歴史情報を提供します	歴史情報の提供	○ 史資料の閲覧 ・ 地図、絵図の調査を実施し、その成果を公開する。	・ 明治初期の町村地図約1000点を素材に測量法や描画法など研究。 ・ 平成27年度冬季展「地図の明治維新」にて成果活用。入場者2806人 ・ 今後は、地図画像のWEB公開などを検討する。	B	・ 自分の住んでいる地域の昔の姿が知れてよかった。 ・ 村誌地図に目を開かれた。 ・ 「信濃全図」はすばらしい。印刷して是非販売してほしい。 ・ 地図はいくら見てもあきない。		
		○ ホームページの充実 ・ アクセス数(年間 65,000件) ・ ホームページの内容の充実	・ ホームページアクセス数 年間66,980件 ・ ブログを毎週発信	A			
		○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」、読売新聞社「名作招待席」へコラムを掲載する。 ・ 企画展、講座等の情報発信を行う。	・ コラムしなの歴史再現(信毎) 25回 ・ コラム名作招待席(読売) 7回 ・ 新聞イベント欄に掲載	A			
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	参加して楽しむ場、憩える場とします	○ 体験イベントの開催 (勾玉づくり、縄文人になって遊ぼうetc) ・ 出前イベント「縄文人になろう」を実施する。 ・ 戦後70年企画「長野県民の1945」等に関連した出前講座を実施する。	・ 県庁、長野県埋文センター、伊那文化会館で実施 ・ 大町市、駒ヶ根市他 13講座 729人参加	A			
		○ 親子映画会の開催 ・ 参加者の増加(年間 1,000人)	・ 年間1495人参加	A			
	県民が参画した館の運営を進めます	○ 古文書愛好会の育成と活動支援 ・ 古文書講座受講者の半数の入会 ・ 参加者数 500人(延べ)	・ 入会率 47.5%(入会者 75名/受講者 158名) ・ 参加者数 延べ664人	A	・ たくさんの古文書にふれられてうれしい。		
		○ 運営サポートボランティアの育成 ・ 展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、学校見学の解説、イベント運営への活用を進める。 ・ 常設展示等館運営ボランティアの積極的な活用を図る。	・ 学校・団体見学の解説 46回 ・ イベントで活動 8回 ・ 常設展の日曜ボランティア解説開始(H28.1~) 12回	A			
		○ 利用者アンケートの充実 ・ 来館者アンケート回収率を高め、評価の充実を図る。	・ 回答の多くを選択式にして、短時間で記入できる様式にした。 (回答率 入館者のH26 1.16% → H27 0.97%)	C			
総合評価	<コメント>		<評価>				